

公共投資プログラム運営監理強化プロジェクト Project for Enhancing Capacity in Public Investment Program (PIP) Management (PCAP2)

ハイライト

- 特集 We've Done it! -862人が参加したPIPマネジメント研修- (1ページ)
- よりよいPIPマネジメントを目指して (2ページ)
- もう一つの柱、財務研修のご報告 (5ページ)

特集 We've Done It! —862人が参加したPIPマネジメント研修—

PCAP2プロジェクトでは、成果1：「全県・全中央省庁/機関の計画局職員が、基礎的・総合的なPIP運営監理の知識・技術を習得する」の達成に向け、各県・省庁の職員を対象とした「PIPマネジメント研修」を実施しました。

「PIPマネジメント研修」は、2009年11月～2010年2月までの約3か月間で、ラオスの全16県/ビエンチャン都を回る大巡業ツアーとなりました！研修講師を務めたのは、MPI評価局、国際協力局、計画局の合計14人の職員たち、そして研修マネジメント・調整担当として評価局と組織人事局の職員6人が奮闘しました。今年度は、前号でお伝えした通り研修コンテンツが多岐にわたり、講師にとっても全てをマスターした上で、研修に臨むのは至難の技でしたが、何とか研修の全行程を無事に終えることができました！



(写真)省庁研修参加者とMPIのトレーナーの皆さん

同研修には、各県・省庁を合わせてなんと862人もものPIP関係者（計画局職員とセクター部局のPIP事業主）が参加し、7つのPIP運営監理手法について学びました。受講者の研修プログラムに対する満足度は非常に高く、なんと受講者の99%*以上が、この研修プログラムの内容はPIP運営監理の改善に「非常に有効である」もしくは「有効である」と、答えています。

また、研修受講者による知識の習得度合いに関しては、導入した7つの手法のうち、既存のコンテンツでは、「継続PIP事業の予算申請の手順・方法」、新規のコンテンツでは、「債務支払い申請の手順・方法」、「郡におけるPIP事業予算の申請ルート・手順」など予算申請に関する内容についての理解度が高かったのが特徴的です。

*参加者によるアンケート結果（フアパン県、シェンクワン県、ビエンチャン県、ポリカムサイ県、ビエンチャン郡に基づく）。

(1ページから続く)

● 表 1 研修終了時テストの正当率●

研修コンテンツ		質問番号	正解	間違い
既存コンテンツ	1 継続PIP事業の予算申請の手順・方法	Q5	81%	19%
	2 継続PIP事業の審査のポイントと審査方法	Q7	58%	42%
		Q9	25%	75%
	3 セクタープログラムマネジメント手法	Q4	46%	54%
Q8		30%	70%	
4 PIP事業相対評価手順・方法	Q3	43%	57%	
新規コンテンツ	5 債務支払い申請の手順・方法	Q1	76%	24%
	6 郡におけるPIP事業予算の申請ルート・手順	Q2	81%	19%
		Q12	90%	10%
	7 ODAラオス負担予算の申請手順・方法	Q6	50%	50%
Q10		38%	62%	

* 正解には完全正解とほぼ正解(採点基準に基づく)が含まれる。

* 参加者による終了時テスト(プアバン県、シェンクワン県、ピエンチャン県、ボリカムサイ県、ピエンチャン都)の結果に基づく。

一方で、受講者にとって比較的なじみがないと思われる「セクタープログラムマネジメント手法」や、「継続PIP事業の審査のポイントと審査方法」のうち特に有効性と効率性との違いに関する質問などについては、理解が困難な結果となりました(表1参照)。

今後PCAP2では、各県・省庁の職員が研修で学んだ知識・技術を実務へ適用し、PIP予算策定のプロセス・結果に反映させられるよう、2月下旬から3月にかけての実地訓練(OJT)を通してサポートしていく予定です。次号では、このOJTの取り組みについてご紹介いたします。乞うご期待を!(文:平良)



北部ポンサリー県での研修の様子



PIP事業相対評価の結果を発表する公共事業省からの参加者

よりよいPIP マネジメントを目指して

計画投資省、評価局の副局長のプーコン・バンナヴォンと申します。PIPマネジメント研修講師の一人として全国研修に参加してまいりました。4カ月間にわたって全国の県・全中央省庁・機関の計画局などの職員に対して研修を行ってきましたが、各方面から大きな成果があったと評価をいただいております。

これまでPCAP2プロジェクトと共に、公共投資プログラムの適切な運営監視を目指して様々な研修教材やマニュアルを作成してきました。以前に比べると、公共投資プログラム監視能力は確実に向上していると実感しています。

特に、これまで開発してきた各種ツールはラオスの中央省庁/機関、各県・地方のそれぞれの条件に合わ

せて開発してきましたので、実践的な運営監視が可能になっていると思います。今後は、これらのツールを活かし、よりシステム化された公共投資事業管理が主流化する時代に入っていきたく思います。

更に、長い間念願であった公共投資(PIP)法が制定され、ラオスの国家法案として通常国会で承認されました。このPIP法が制定されたおかげで、今後は、法律に基づいた公共投資マネジメントや事業評価を行うことができるため、我々の目指す活動を後押ししてくれるに違いありません。

一方で、どんなに素晴らしい法律が制定されたとしても、使われなかったら、あるいは意図とは違うように使われたら、何の役にも立ちません。我々の課題は、PIP法をどのように省庁・県の職員や申請者、一

般の人に理解してもらい、そして実際に活用してもらおうかということです。各種の勉強会、メディア等を通じて、関係者へのPIP法の内容を周知していく必要があります。

また今後の活動として、公共投資運営管理に関する各種研修カリキュラムの改訂を続ける必要があると思います。なぜなら、それぞれの時代によって、経済社会を取り巻く環境・解決法、外部要因などが少しずつ変わる可能性があるからです。それらの状況にあわせてカリキュラムを改良していく必要があります。特に、開発成果を重視したマネジメント(Managing for Development Result, Result based development)が大切です。この成果に重点を置いた活動を続ければ、よりよい公共投資監視が可能となるでしょう。

(文:プーコンMPI評価局副局長)

MPI ハイブリッドチーム！

今回の研修トレーナーチームのハイライトは、国際協力局（DIC）の加入です。これにより、これまでPCAP2研修トレーナーを派遣してきた評価局（DOE）、計画局（DOP）に、DICを加えた3部門のオフィサーからなる混成チームによる研修実施が実現しました。

DICオフィサーは主に、「ODAカウンターパートファンド」の研修科目を担当したのですが、他の2部門からのトレーナーも、この研修内容をマスターして立派にトレーナーを務めました。その結果、各トレーナーが、日頃の実務を通じて培った専門知識を生かすことにより、各部門の強みを生かした強力な、いわば「ハイブリッド」のトレーナーチームが誕生しました。これはPCAP2が実現した画期的なコラボレーションです。これら3部門のトレーナーは、今後の研修でもPIPマネジメント改善の伝道師役を果たし、MPI内部での業務連携強化の核になってゆくことが期待されています。頑張れ！MPIトレーナー！



PIP研修で正解者に記念品を手渡すDIC カンパイ 副局長

（文：長田）

JICAラオス事務所PCAP2プロジェクト新担当のご紹介

2010年2月よりJICAラオス事務所の木村雅子さんがPCAP2のご担当となりました。

はじめまして。この度、前任の吉村に続きPCAP2を担当させていただく事になりました。ラオス事務所企画調査員の木村雅子（きむらまさこ）と申します。



一昨年の11月末に当事務所に着任し、PCAP2と同じガバナンス・セクターで実施している技術協力プロジェクト「ラオス財務省公共財政管理能力強化プロジェクト」を担当している関係から、これまでもPCAP2の活動状況について情報共有させていただいたり時に参考にさせていただいたりする機会をいただいておりますが、これからは今まで以上に近い立場で関わらせていただける事になりました。

まずは先日、2月中旬に行われた、全国研修の最終回となる中央省庁職員を対象とした研修に参加させていただきましたが、カウンターパートであるMPI職員の自信に満ちたファシリテート振りに、これまでプロジェクトで構築されてきた確実な成果の積み重ねを感

じました。また参加者である中央政府職員も、活発なグループ・ディスカッションや質疑応答を行うなど非常に積極的な姿勢を見せており、今後のプロジェクトの成果発現にも大いに期待が持てました。

今後は上記研修で習得された知識が各所で適確に実務に活かされるよう、フォローアップ（OJT）の実施などが計画されていますが、ここまでの蓄積をより確実なものとし、プロジェクトの目標が達成、実現されるよう、事務所からも適切なサポートを行なって参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

平地から山岳まで、全国共通のマネジメント・ツールを利用する

バンルシット・チトーブロークと申します。計画投資省評価局、情報研究課長をしております。PCAP2プロジェクトと共に公共投資監理マニュアルの策定に関わる機会を得たことを嬉しく思います。

本マニュアルを作成する過程では、PCAP2専門家や同僚からも多くのことを学ぶことができました。また研修に参加した計画局の職員からは、現場で起こる様々な課題を教えてもらいました。今後はこれら現場の課題から学んだことを改善していく所存です。

今回のPIPマネジメント研修では、私はチームリーダーを務め、全国の多くの地方と中央省庁に対する研修を行いました。公共投資法も新たに制定されたので、改訂版の申請フォーマットやツールを用いて研修を行いました。2010-2011年度の予算計画策定期間に合わせた実践的な研修ができたことも、各機関にとって有効的だったと思います。

今回の研修を終えて、地方の職員が以前と比べて、PIPマニュアルの意義や、PIPマネジメント手法をより理解してくれていると感じました。

また、この紙面を借りて、研修講師を務めた職員へも感謝したいと思います。講師は事前に入念な準備を行い、研修参加者からの質問に対して答えられるよう自ら勉強するなど、努力を重ねてきました。また長い時には2週間以上も家族から離れて地方で研修を行いました。どんなに疲れていても、どんな問題に直面しても全員で協力しながら、今回の研修をやり遂げてくれました。

しかしながら全てが大成功というわけではありません。今回の研修を通じて新たな課題も見られました。例えば、今回の研修は応用編であり、PIPマネジメントの基礎知識のある職員を対象とした研修内容でした。しかしある研修では、参加者の半分以上が基礎知識のない新入職員でした。その結果、研修内容をきちんと理解することができませんでした。さらに、研修用資料やマニュアルもまだ100パーセント完成されたものではありません。すべての参加者が内容を理解できるよう改訂を続けなくてはなりません。今後とも、JICA支援のPCAP2と計画投資省の指導の上で、ラオスの公共投資運営監理はよい方向に進むと私は信じております。（文：バンルシットMPI評価局情報研究課長）



PIP研修で講義中のバンルシット課長

(企画) トレーナーに突撃インタビュー

計画投資省評価局
トンディー・ポンマ
ヴォンサイさん



●実地訓練 (OJT) に参加して —MPIトレーナーの感想—●

PCAP2では「PIPマネジメント研修」と「財務研修」のフォローアップを行うため、2月下旬から3月にかけてMPI職員がトレーナーとなり、県と省庁の計画局を対象とした実地訓練 (OJT) を行いました。OJT研修の結果は次号に詳しくご報告しますが、OJTに参加した感想を、ルアンナムター県にてOJT中だったMPIトレーナーのお2人に突撃インタビューしました。

計画投資省評価局
ソムバット・サイヤ
シットさん



◇答◇

A1: ボケオ県に行き、今はルアンナムターで研修中です。これからウドムサイとポンサリ県まで行く予定です。PIP研修は担当していませんでした。

◆質問◆

Q1: OJT研修ではどの県を担当されていますか？
PIPマネジメント研修は担当されましたか？

◇答◇

A1: ボケオ、ルアンナムター、ウドムサイとポンサリ県でのOJT研修を担当しました。PIP研修は担当していませんでした。

もう1つの柱、財務研修

●PIPマネジメント研修に加え、PCAP2では新たな取り組みとして財務研修を実施しました。結果は如何に？



財務研修のワークショップの様子

1 月中旬に各県のDPIを対象として、財務研修を行いました。PCAP2で財務研修を行うのは初めてのことであり、参加者からどのような反応があるかとやや不安に感じていましたが、全般的に参加者の理解度は高く、また前向きなコメントも多かったことに驚いています。

財務研修は、県での財務状況、特に支払期間の短縮化に焦点を当てました。どの県もそうですが、NSEDの達成のため、多くのプロジェクトを行う必要があると考えていますが、予算のキャパシティ以上にプロジェクトを実施すれば支払いが遅延し、プロジェクト費用が高くなります。そのため、各県は予算形成プロセスで、自県の財務状況を把握し、予算キャパシティ以上のプロジェクト実施を避ける必要があります。

いくつかの県ではこのような財務管理はすでになされていましたが、問題を抱えている多くの県では、直接同じ管理方法を導入することはできなかったため、PCAP2ではどの県でも使える財務管理ツールを開発しました。

今回の研修では、参加者自身が財務管理ツールを使って計算と分析をすることにより、ツールに関する理解を深めました。多くの県からは、財務管理ツールをさらに活用して詳細な財務分析を行い、セクター各局とのワークショップで財務状況を把握しつつ、予算形成を進めたいとのコメントがあり、財務管理ツールは前向きに受け入れられているように感じています。

3月から4月にかけて県での予算形成プロセスが本格化しますが、財務管理ツールを財務状況の改善に役立ててもらうことを期待しています。また、PCAP2では、5月以降にいくつかの県を訪問し、財務管理ツールがどのように活用されたのかを確認したいと考えています。（文：畔田）

トレーナーにインタビュー (4ページから)

(トーンディさん)
A2. OJT研修で扱うべき項目全て。

A3. プロジェクト計画書を書く際のツールをきちんと選択すること。

A4. 同僚と意見交換することにより、課題が明らかになり、新たに解決方法を探ることができました。

A5. ルアンナムター県です。PIPマネジメントをよく理解している評価局職員がおり、みな協力的です。

Q2. 実地訓練(OJT)として研修ではどのテーマとどのコンテンツを担当していますか。

Q3. 受講者に理解してもらうためにどんな工夫をしていますか。

Q4. OJT研修に参加して、自分の仕事に役立つことはありましたか。

Q5. 一番印象の深い県はどこですか。

(ソンペットさん)
A2. OJT研修の全てを担当しています。

A3. 特にプロジェクト進捗報告書を書く際に、進捗状況に応じて内容を変えるよう伝えています。

A4. 全てが役に立ちます。さらに経験を積み、よいトレーナーになりたいです。

A5. ルアンナムター県です。職員は好意的ですし、PIPマネジメントについてもよく理解してくれています。

トーンディさん、ソンペットさんご協力ありがとうございました。次回は是非PIPマネジメント講師としてもご活躍下さい。（企画：石垣）

プロジェクトスタッフ紹介

●2010年12月から新しくPCAP2の力強い仲間となりましたアヌサックさんです●
アヌサックさんには公共財政管理の担当として、徳良専門家や畔田専門家とともに財務研修を担当していただきました。

私はアヌサック・ソムサニットと申します。政治行政学院(NOSPA)で、経営学の修士課程を専攻致しました。

大学院を卒業した後は、勉強を続けながら、社会経験をつけるために、民間会社や、合弁企業などで勤めていました。ビエンチャンにある国際的機関で仕事をした経験もあります。

これらの職務経験を積んだあと、今回、公共投資プログラム運営監理プロジェクト(PCAP2)のローカルコンサルタントとして仕事をしております。組織のキャパシティビルディングに関する仕事にやりがいを感じています。

開発にかかわる仕事が好きですの

で、PCAP2の仕事は、自分にとってぴったりな仕事だと思います。今後もずっとこのような開発に関する仕事を続けていきたいと思えます。

この素晴らしい仕事に参加し、ラオスの国の社会経済開発につながる活動に貢献できることを誇りに思っています。

最後に、このニュースレターを読んで頂く方々のご健勝をお祈りいたします。

また次回にお会いしましょう。



アヌサックさん(左)とご家族

プロジェクトカレンダー

2010年3月～5月活動概要

- 3月：OJT研修実施(継続)、第4回JCC開催
- 4月：第三国研修
- 5月：マニュアル改訂、研修教材改訂

2010年6月～8月活動予定

- 6月：MPIのTOT実施、研修・メタ評価
- 7月：研修・メタ評価(継続)
- 8月：第5回JCC開催、第3年次活動終了

● 編集後記 ●

前任の中村から引き継ぎ、1月よりラオスにおります業務調整の石垣真奈です。色黒のせいかな？北部ポンサリ一県の人に似ている！と赴任当初より皆さんにすんなりと受け入れていただいているようです。ラオスのおいしい食事と優秀なスタッフに囲まれ、毎日楽しく仕事をさせていただいています。

PCAP2の3年次の活動もあっという間に後半戦です。これまでに播いた種からきれいな花が咲き、たくさんの実をつけるように、これからもプロジェクト一丸となって頑張ります。

プロジェクトでは、皆様のご意見、ご感想、ご要望をお待ちしております。

お問い合わせ・送付先：

- プロジェクトオフィス：Ministry of Planning and Investment, Souphanouvong Avenue, Vientiane
- 郵送先：C/O JICA Laos Office, P.O.Box 3933, Souphanouvong Avenue, Vientiane
- 電話・ファックス：+856(0)21.243.687
- Eメール：jica.pcap2@gmail.com
- ホームページ：http://www.jica.go.jp/project/laos/0700667/laos/index.html

